

養護老人ホーム

木曾寮だより

第86号

年1回発行

養護老人ホーム
木 曾 寮

TEL 0264-52-2054
FAX 0264-52-2934

社会福祉法人 木曾社会福祉事業協会

理事長兼木曾寮所長 田上 昭彦

養護老人ホーム「木曾寮」は荻原地籍の上松荘隣に移転新築され、昨年四月から木曾広域連合からの指定管理契約により当法人での運営が始まっています。

『養護老人ホーム』

『特別養護老人ホーム』

この二つの施設の差を理解している方は、かなり福祉の世界に詳しい方かと思えます。木曾寮は前者の「養護老人ホーム」です。この二つの差を簡単に言ってしまうと、「特別」が付くと介護保険の施設であり、付かなければ介護保険施設ではないということにな

ります。

どう違うの？と疑問に感じる方がほとんどかと思えます。介護保険

は原則六十五歳以上で介護認定を受けていることが利用の条件となります。しかし世の中には介護認定を受ける必要が無い心身状況でも、高齢・生活困難等の理由により、在宅で生活することが難しくなっている方もいらっしゃいます。「木曾寮」はこのような方が生活する場として存在します。専門用語で言いますと「セーフティネット」Ⅱ「最後の生活の砦」としての高齢者入所施設ということにもなります。ですので、誰でも利用できるというわけではありません。町村役場から木曾寮での生活が妥当と判断された方がのみが利用できます。ここが介護保険施設と決定的に違うところです。

こうして運営される木曾寮は入所定員五十五名・短期入所定員三名。併せて五十八名の方を受け入れることができますようになっています。

私たち職員は、今に至る日本の経済発展に寄与し、地域社会を支えてくれた方々に尊敬の念を抱きながら、安心して老後の生活が送れるよう生活面の支援をさせていただいています。新しい施設は、プライバシーが保たれるよう居室は全て個室となっており、最新の設備も導入もされていますので、安心安全に生活できる場となっています。皆様も是非一度見学に来ていただければと思います。

最後になりますが、今年は昨年のような大きな災害や異常気象による被害が起らない一年となりますことを祈念しながら、木曾寮の紹介並びに私の挨拶とさせていただきます。



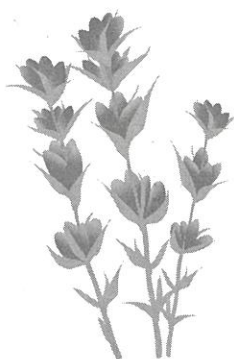
事務屋としてできること

事務員 鈴木 正信



一年が経ち、右往左往しながらもワイワイ楽しい日々を、利用している皆さんと過ごしています。顔を合わせるたびに優しい笑顔で声をかけてくれる皆さんに癒されています。

木曾寮での業務は事務全般で、利用者さんが楽しく過ごせたり、職員が快適に仕事ができるよう考えて動いています。同時に法人事務局員兼務として、業務移管先となった法人の理念や方針を浸透できるよう精進しています。



りんどう

感謝の一年

事務員 蜂須 和代



令和六年四月より、上松荘と兼務という形で、事務を担当しております蜂須と申します。

最初は、慣れないことばかりで、戸惑いもありましたが、利用者の皆様の温かな笑顔と、職員の方達の丁寧な説明により、無事一年が過ぎようとしています。

これからも、木曾寮の良さを大切にしながら、利用者の皆様が日々過ごしやすいように、仕事をしていきたいと思っています。

今後とも、よろしくお願い致します。



しゃくなげ

よろしくお願いいたします

田村 くるみ



令和六年一月より木曾寮の訪問介護事業所に勤めております田村です。一昨年に東京からこの上松に移住し、この地に貢献できる仕事に就きたいと思いご縁に繋がりました。新たな仕事を覚える事と旧木曾寮からの移転が重なり大変でしたが、木曾寮のご利用者をはじめ職員の皆さんに温かく声を掛けて頂きここまで至る事ができたと感謝の思いです。出身は埼玉で関東からでた事がなかった私にとってこちらの生活は知らない事が多く教えて頂くことばかりですが、仕事の中で木曾の言葉や習慣等新たな文化に触れる事ができ嬉しく思っています。今後も微力ながらこの木曾寮に、そしてこの地域に貢献して行けるように邁進していきたいと思います。

はじめまして

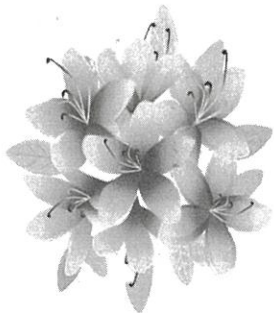
牛丸 和也



こんにちは。
昨年二月より上
松荘から異動し
てきました牛丸
和也と申しま
す。新しい木曾

寮に引越し、あつという間に一年が
経ってしまいました。私自身まだまだ
覚えることもたくさんあり、広い木曾
寮を動き回っていますが、利用者様の
温かい言葉や笑顔に励まされていま
す。

至らない点も多くありますが、利用
者様のパワーに負けず頑張っていきた
いと思います。今後ともよろしくお願
いいたします。



つつじ

使命と目標

志水 るみ



廊下を歩いているとポンッと肩を叩
かれ振り返ると女性利用者のMさん。
「私のお部屋に来て」とのお誘いがあつ
たので訪室するとなんとビックリ！机
の上にフェルトで手作りされた沢山の
お花が散りばめられていて思わず「可
愛い♪」と大絶叫。赤いチューリッ
プや黄色のタンポポにうっとりしてい
ると「ありがと」とMさんの溢れる笑
顔。

木曾寮に異動となり半年が過ぎまし
たが、私は人に寄り添う仕事の難しさ
を勉強しながら利用者さんの笑顔を守
る事を使命であり、目標としています。

木曾暮らし一年目

會田 三智子



上松ねこを作
る教室に参加した
講師の方とのご縁
で、今年の春から
木曾での暮らしが
始まりました。出

身は千葉県ですが、木曾に来る前は松本
に十八年暮らしていました。

右も左もわからないまま、木曾での暮
らしと木曾寮での仕事が始まりました。
今まで施設で働いた経験がなく、初めて
経験する業務も多い中、職員の方や利用
者の皆さんに助けられ、日々の業務で学
ぶ事も多いのであつと言う間に一年が過
ぎていきました。

木曾は谷深く自然が豊かで四季を感じ
られる生活がとても良く、静かに過ごせ
る環境がとても好きで満足しています。
利用者の皆さんが自分らしく暮らし、
穏やかに過ごせる環境作りに努めてい
き、地域の皆さんとの関わりを持てるよ
うな交流が出来たらと思っています。

初心を大切に

中島 哲



昨年の四月より支援員として働かせていただいております中島哲と申します。

私は、介護の

仕事は全くの未経験で最初は驚きと戸惑いの連続だったことを昨日のこのように覚えています。このような中で利用者の皆さんを必死に覚え、業務多忙な先輩職員の皆さんから丁寧に指導をいただき、少しずつではありますが業務を覚えることができ、また、介護職員としての資格を取得することもできました。

まだまだ未熟者ですが、これから今の気持ちを忘れることなく、利用者の皆さんの思いに寄り添ったサポートをし、木曾寮での生活が少しでも安心で快適な生活ができるよう、頑張りたいと思います。

八十六歳にして木曾寮に入所してみたいの想い

匿名

私は昨年六月に木曾寮に入所しました。令和元年に両目が全く見えなくなり、令和六年までは木祖村住民福祉課、社協のみなさんや、訪問看護の皆さんそれぞれにお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

私の病気は平成十五年頃、網膜色素変性症と診断されました。この病気は全国で四万人発症事例があります。この病気に対して、京都大学の教授山中先生による手術で視力が戻ったという例もありましたが地方での手術はできないと言うことになりました。

網膜色素変性症とは(網膜の光を感じる細胞(視細胞)が徐々に変性・消失していく病気です。)

私の病気に関わらず難病といわれるものを多くの人に知ってもらいたい特効薬が早く開発されることを祈るばかりです。

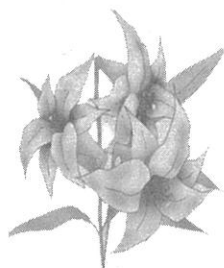
私がまだ若かったころは多趣味で狩猟を二十年、養蜂を十年、キノコ採りは時期になると毎日にかけていまし

た。カメラも少々かじっていました。これは兄がアマチュアカメラのグループに入っており県展で入賞していたのに憧れて始めました。兄と違い私は長続きせず一年程で辞めてしまいました。

木曾寮に入所し八カ月が経とうとしています。日ごろ職員の皆さんにはよくしていただいています。また顔なじみの入所者のかたと話ができ、安心して過ごしています。

ただ産まれてから八十年以上過ごしてきた故郷である木祖村への想いもまだまだあり、藪原祭りの太鼓や笛の音が体に染み付いており、どこから聞こえてくる気がします。

木曾寮だよりをご覧の皆様お体に気を付けてお過ごしください。



ささゆり

外出行事バスバイキング



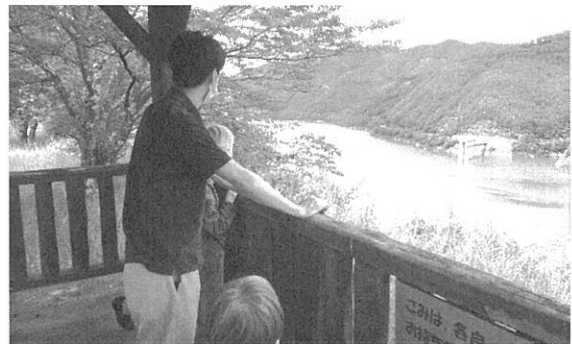
お花見ドライブ



森林浴ドライブ



自治会役員懇親会



新緑ドライブ

木曽寮行事アルバム



避難訓練



朴葉巻き作り



辺見先生の運動教室



誕生会

高齡者作品展会長賞



上松町総合文化展



ボランティアの

皆様

令和六年三月、
令和七年一月

・上松町民生児童委員
協議会様

・木曾仏教会様 (法話)

・みんなで歌おう会様

・ご寄付いただいた皆様

・タカサワ通商様

・原文具店様

・小林薬局様

・梅本米穀店様

・川野薬品様

・上松理容組合様

・田浅米穀店様

・木曾農業協同組合様

・上松町シニアクラブ様

・上松町役場職員会様

・下原敏幸様

・笹田千鶴子様

・古瀬隆男様

・山本貞夫様

・小畑保様

・尾崎文雄様

・西裕一様

・上原きみ様

・生駒ちか様

・藤原和年様

・匿名希望様

編集後記

木曾寮だよりをご覧
のみなさま、こんにち
は。

今年度の木曾寮だよりはいかがだったでしょうか、例年新人紹介は一、二人ですが今年は過去最多の七名の紹介となりました。また高齢者施設が初めてという方もおり例年とは違った内容で楽しんでいただけたかと思えます。また今年度は木

曾広域連合から運営が
変わり変化の多い一年
となりましたが木曾寮
だよりは例年と変わら
ず発行することがで
き、大変ありがたく思
います。

二年前は新人として
紹介していただきまし
たが今年は新人さんの
紹介をすることになり
感慨深い思いがありま
す。

また来年木曾寮だよ
りでお会いしましよ
う。

生活相談員

安原 翔矢

